



かながわの 青少年 2018

神奈川県青少年白書（概要版）平成30年版

青少年一人ひとりと、 地域 みんなが輝く明日へ

県では、青少年の健やかな成長を支え、自立・参加・共生を育む社会の実現を目指し、「かながわ青少年育成・支援指針（平成28年3月改訂）」を策定しています。

「すべての青少年」「困難を有する青少年」「社会全体」という3つの視点から、それぞれ基本目標と数値を設定し、県民全体の理解と協力、責任のもと、課題に応じたさまざまな施策を展開しています。

このリーフレットは、県の各地域で活動される皆さんや関係機関に向けて作成したものです。さまざまなデータから見えてくる青少年の現状や青少年行政の主な施策を掲載していますので、日々の活動にお役立てください。

神奈川県青少年白書の全文は県ホームページ、県政情報センター、各地域の県政情報コーナーでご覧いただけます。



かながわの青少年

検索 



すべての青少年の、成長と自立・参加・共生に向けて



青少年が基本的な生活習慣や、基礎的な体力・学力、豊かな人間性と社会性を身につけることが重要です。創造性やエネルギーを生かして、未来を切り拓き、社会の中で自立・参加・共生できるよう、支援の充実を図ります。

青少年の意識や就労の現状

小学生の **22.7%**

中学生の **30.9%** が

自分にはよいところがあるとは思えない

と考えています。

出典：平成29年度全国学力・学習状況調査（文部科学省）

小学生の **15.3%**

中学生の **31.5%** が

自分の将来に夢や目標が持てない

と考えています。

出典：平成29年度全国学力・学習状況調査（文部科学省）

ですが

小学生の **91.9%**

中学生の **90.2%** が

人の役に立ちたい

と考えています。

出典：平成29年度全国学力・学習状況調査（文部科学省）

全国の大学卒業者のうち、

安定的な雇用に就いていない者

（非正規社員、パート、アルバイト、進学も就職もしていない者などの合計）は

11.9%で、

7.8%は

進学も就職もしていません

出典：平成29年度学校基本調査（文部科学省）

県の取組

子ども・若者の成長を支援し、活躍を応援します

子ども☆キラキラプロジェクトの推進

保健体育課

児童・生徒の体力・運動能力の向上と運動習慣の確立、生活習慣の改善を図る取組を推進しています。

子どもの未病対策推進事業

健康増進課

子どもが未病改善の基本となる正しい生活習慣を身につけられるよう、就学前児童等向けに普及啓発資料を作成するとともに、高校の授業等で活用していただく健康・未病学習教材を作成します。

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向けたアスリートの育成

スポーツ課

東京2020大会において、「神奈川育ちのオリンピック」40人、「神奈川育ちのパラリンピアン」20人の出場を目標に、有望アスリート及びその指導者に対して競技活動費などを支援します。また、大会後も将来の神奈川のスポーツ振興に寄与することを目指します。

マグネット・カルチャー推進事業

文化課

若者が自由に才能を発揮できるよう、演劇をはじめ、ダンス、音楽等の発表の場を提供しています。また、若者を対象としたマグカル・パフォーミングアーツ・アカデミーを通年開校し、舞台芸術人材を育成しています。

多様な体験学習や地域活動を通じて、豊かな人間性と社会性を育みます

文化芸術による子どもの育成事業

生涯学習課 一文化庁事業一

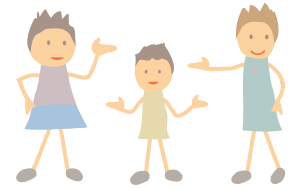
小学校・中学校等に、一流の文化芸術団体による実演芸術の巡回公演や、個人又は少人数の芸術家の派遣をしています。子どもたちに質の高い文化芸術を鑑賞・体験する機会を確保するとともに、芸術家による計画的・継続的なワークショップなどを実施しています。

青少年科学体験活動

青少年センター

子どもサイエンスフェスティバルや移動科学体験教室などを通じ、青少年の科学体験活動を推進。また、地域で活動する科学指導者の養成、教員・教員志望学生を対象とした人材育成、インターネット科学館による情報発信も行っています。





青少年舞台芸術活動の推進

青少年センター・文化課

青少年の文化芸術に関する発表や、舞台芸術の鑑賞及び体験型事業を行うなど、青少年の舞台芸術活動への支援、県民の文化芸術の振興及び舞台芸術人材の育成を図っています。

体験学習をサポートする青少年支援・指導者の育成

青少年センター

地域で子ども・若者の体験学習を推進する、支援・指導者を育成しています。

社会的・経済的自立に必要な、能力を得るための支援をします

かながわ子ども合衆国事業

青少年課

地域の方々の協力のもと、子ども主体でつくる仮想のまち「キッズタウン」(労働体験や納税体験等を通じて社会の仕組みを学ぶもの)を実施している県内の大学や団体と連携し、「かながわ子ども合衆国」(県内にキッズタウンを普及するための推進基盤)を構築しています。

シチズンシップ教育

高校教育課

これからの社会を担う自立した社会人の育成に向けて、積極的な社会参加のための能力と態度を育成する実践的な教育を、シチズンシップ教育として位置づけて実施しています。

ライフキャリア教育推進事業

人権男女共同参画課

若年層(大学生・高校生)を対象とした啓発冊子のほか、視聴覚教材やロールモデル事例集の作成等により、男女共同参画の視点を踏まえた、ライフキャリア教育の普及拡大を図っています。

若年者の就業支援

雇用対策課

キャリアカウンセリング、就職活動支援セミナーや就職情報・職業訓練情報の提供を行うとともに、若者の雇用・育成等に積極的な中小企業・小規模企業と正規雇用を目指す若者とのマッチングのための面接会等を実施しています。

若年者労働教育支援

労政福祉課

若者に向けたいわゆる「ブラック企業」対策として、過重労働・若者使い捨て撲滅相談やセミナーを実施しています。

目標と実績

■高校生が学習活動を通して、思考力・判断力・表現力を高められたと回答した割合

	目標	実績
2014年度	—	47.4% (推計値)
2015年度	53%	54.1%
2016年度	59%	51.0%
2017年度	64%	49.7%
2018年度	70%	—

※出典：平成29年度「魅力と特色ある県立高校づくりについてのアンケート」(高校教育課調査)

■小学生が週3回以上外で遊んだり、運動やスポーツを実施したりする率

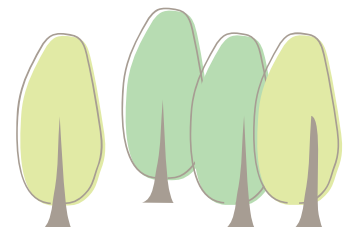
	目標	実績
2013年度	—	37.5%
2015年度	41%	38.8%
2016年度	44%	44.8%
2017年度	47%	43.7%
2018年度	50%	—

※出典：平成29年度「神奈川県児童生徒体力・運動能力調査」スポーツ課作成(保健体育課調査)

■県が関係する、子ども・青少年向け文化芸術の鑑賞・体験事業の参加者数

	目標	実績
2014年度	—	154,173人
2015年度	162,000人	176,432人
2016年度	168,000人	179,754人
2017年度	174,000人	181,278人
2018年度	180,000人	—

※出典：平成29年度文化課調査



困難を有する青少年の、社会的な自立を目指して



ひきこもりやニート、いじめ、不登校、非行。さらには暴力行為問題の深刻化や、児童虐待の増加…。

こうしたさまざまな課題に対して、多様な機関の連携による総合的相談・支援体制を充実し、青少年の社会的な自立を支援します。

青少年のひきこもりや、就労などの現状

■ひきこもりの若者の推計数

若者のひきこもりの割合は **1.57%**、全国で約 **54万1,000人**。その割合を基に推計すると、県内では約 **4万1,000人**になります。

出典：平成27年度 若者の生活に関する調査（内閣府）

■若年無業者数

（15～34歳の非労働力人口のうち、家事も通学もしていない者）

全国の若年無業者数は若者人口 **2,567万人**の約 **2.1%**で約 **54万人**。年齢階級別では **30～34歳**が **17万人**と最も多く、次いで **25～29歳**が、**15万人**となっています。

出典：平成29年 労働力調査年報（総務省統計局）

■いじめの認知件数

14,938件▶**全国第7位**（1位 千葉県、2位 京都府、3位 宮城県）

※調査対象：県内の国公私立小・中・高等学校・特別支援学校

■学校内における暴力行為の発生件数

8,541件▶**全国第1位**（2位 大阪府、3位 千葉県）

※調査対象：県内の国公私立小・中・高等学校

■不登校の児童・生徒数

小・中学校▶**10,873人**▶**全国第2位**（1位 東京都、3位 大阪府）
高等学校▶**2,971人**▶**全国第4位**（1位 大阪府、2位 東京都、3位 千葉県）

※調査対象：県内の国公私立小・中・高等学校

出典：平成28年度「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」（文部科学省）

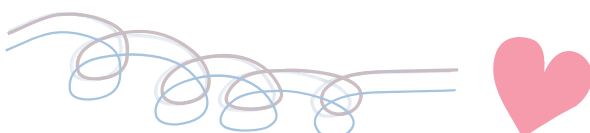
■児童虐待の状況

県内の児童相談所における相談対応件数は過去最多の13,928件。内容別の件数では心理的虐待が全体の半数以上と最も多く、次いで身体的虐待、保護の怠慢・拒否、性的虐待となっています。

出典：平成30年度 子ども家庭課資料

■子どもの貧困率

厚生労働省の調査によると、子どもの相対的貧困率は**13.9%**。また、子どもがいる現役世帯（世帯主が18歳以上65歳未満の世帯）のうち「大人が一人」の世帯員では**50.8%**となっています。



県の取組

■かながわ子ども・若者総合相談センター

青少年センター

青少年の様々な悩みに適切に対応するため、関係機関やNPOと連携した相談を実施。さらに、NPOに対する情報や活動の場の提供、人材育成支援を推進しています。

■NPOとの協働で、ひきこもりなどの青少年を支援します

青少年センター

フリースペースなどを運営する民間支援団体の相談事業を対象に、事業費を補助。ひきこもりなどの青少年が安心できる居場所づくりを促進しています。

■地域若者サポートステーション

青少年課・雇用対策課

15～39歳までの無職で学校などに通っていないニートなどの若者と、その家族を対象に、面接相談や就活セミナーなどの各種プログラムを実施。就業に向けた様々な支援を行っています。（要予約）

かながわ地域若者サポートステーション

検索

■あすなろサポートステーション

子ども家庭課

児童養護施設退所児童などの自立支援及び安定就労を実現するため、児童に対する相談支援や施設職員に対する研修などを実施しています。

■いじめ問題への取組を推進しています

学校支援課

複雑化・多様化するいじめ問題の現状を踏まえ、総合的かつ効果的な対策を推進するため、「神奈川県いじめ防止基本方針」に則り、いじめの未然防止や早期発見・早期解決などに取り組んでいます。

■スクールカウンセラーを配置しています

子ども教育支援課・学校支援課

心の問題に関して専門知識を持つ臨床心理士などを、スクールカウンセラーとして政令市を除く全公立中学校175校、県立高等学校・中等教育学校の拠点校75校に配置。不登校などの未然防止や早期対応を図っています。

■フリースクールなどと連携を図っています

子ども教育支援課

不登校児童・生徒のための居場所づくりを推進するフリースクールや、学校関係者による連携協議会を開催。連携協力して不登校相談会・進路情報説明会などを行っています。

少年サポートチーム活動を推進しています

県警少年育成課

非行や不良行為、いじめなどの様々な問題を抱えている少年や、問題を抱える少年が多数在籍する学校などに対して、学校・教育委員会・児童相談所などの関係機関や地域ボランティアなどと連携してチームを編成。情報共有と適切な役割分担のもと、積極的な立ち直り支援を行っています。

学校警察連携制度による支援・指導を行っています

県警少年育成課

警察本部と県教育委員会、県私立小学校・中学高等学校協会、県内の全市町村教育委員会などが協定を締結。相互に連携して問題を抱える個々の児童・生徒の立ち直り支援を行っています。

児童虐待の防止を強化します

子ども家庭課

児童相談所などにおける児童の安全確認の強化、市町村との連携強化に向けた環境改善、人材育成など、虐待防止のための緊急強化事業に取り組んでいます。

要保護児童対策地域協議会

子ども家庭課

県内の全市町村に設置されており、児童福祉・保健医療・教育・警察・司法・人権擁護などの関係機関が連携して児童虐待に対応しています。

子どもの貧困対策を推進しています

子ども支援課

有識者などを構成員とした「かながわ子ども支援協議会」を設置・開催。また、支援情報を簡単に入手できるポータルサイト「カナ・カモミール」や、夜間休日電話相談「かながわひとり親家庭相談ダイヤル」を運営し、子どもの貧困対策の推進を図っています。

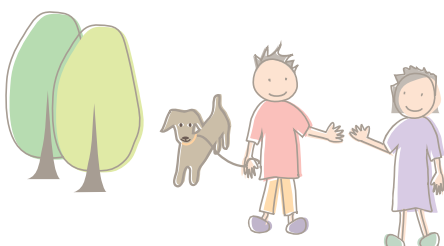
カナ・カモミール

検索

性的マイノリティ(LGBT等)研修・交流相談事業

人権男女共同参画課

NPOと協働して、企業などに対し性的マイノリティ(LGBT等)の理解を促進するとともに、当事者の交流会や専門相談員の派遣による相談事業を実施しています。



目標と実績

■県が設置する「地域若者サポートステーション」で支援を受けた人の就職者数

	目標	実績
2014年度	—	196人
2015年度	220人	229人
2016年度	240人	251人
2017年度	260人	182人
2018年度	280人	—

※出典:

平成29年度「県が設置する地域若者サポートステーションで支援を受けた人の就職者数」(青少年課調査)

■いじめ認知件数のうち、年度内に「いじめの状況が改善」した割合

	目標	実績
2013年度	—	97.0%
2014年度	—	98.3%
2015年度	97.4%	98.6%
2016年度	97.6%	96.9%
2017年度	97.8%	—
2018年度	98.0%	—

※出典:

平成28年度 文部科学省

「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」(子ども教育支援課・学校支援課)

■児童虐待相談のうち、一時保護を必要とした子どもの割合

	目標	実績
2014年度	—	12.9%
2015年度	12.5%	13.6%
2016年度	12.0%	13.4%
2017年度	11.5%	11.8%
2018年度	11.0%	—

※出典:平成30年度 子ども家庭課調査

社会全体で青少年をはぐくむ環境づくりを



青少年の成長と自立・参加・共生を支援するには、大人自身がお手本となれるよう意識改革を進めることが大切です。地域の見守りや青少年の居場所づくり、急激に進む情報化社会への対応など、民間事業者を含む社会全体で環境づくりに取り組みます。

青少年の検挙・補導状況、スマートフォンの利用率などの現状

■非行少年などの検挙・補導状況

県内で検挙・補導された非行少年は前年に比べ減少し、**2,814**人。刑法犯少年は**12年連続**で減少しました。また、刑法犯の再犯者率は約**3割**で推移しています。

出典：平成29年 警察本部少年育成課資料

■不良行為少年の行為別状況

不良行為で補導された少年は**37,559**人。

深夜はいかい、喫煙での補導が**90.3%**を占めています。学校・職業別では高校生が全体の**56.6%**となっています。

出典：平成29年 警察本部少年育成課資料

■薬物乱用の状況

薬物乱用で検挙・補導された少年は**23**人。

有職・無職少年が全体の**82.6%**を占めています。

出典：平成29年 警察本部少年育成課資料

■スマートフォンの利用率（全国）

利用している▼

小学生 ▶ **18.9%**、中学生 ▶ **48.2%**、高校生 ▶ **90.8%**

出典：平成29年度「青少年のインターネット利用環境実態調査」（内閣府）



■スマートフォンのフィルタリング利用率（全国・保護者回答）

利用している▼

小学生 ▶ **27.2%**、中学生 ▶ **47.4%**、高校生 ▶ **45.8%**

出典：平成29年度「青少年のインターネット利用環境実態調査」（内閣府）

■福祉犯罪による被害の状況

福祉犯罪の被害を受けた少年は**736**人。

法令別の割合では刑法犯が**33.0%**、

児童買春・児童ポルノ禁止法違反が**26.2%**、

県青少年保護育成条例違反が**14.5%**となっています。

出典：平成29年 警察本部少年育成課資料

■コミュニティサイトなどを巡る事件の被害状況

出会い系サイトを利用した犯罪被害は**6**人で、**減少傾向**です。

SNSやゲームサイトなど、いわゆるコミュニティサイトを利用した犯罪

被害は**190**人で、被害にあった児童の占める割合は、近年増減を繰り返すも総じて**増加傾向**にあります。

出典：平成29年 警察本部少年育成課資料



県の取組

高校生による非行防止・防犯教室を開催しています

学校支援課・県警少年育成課

高校生が講師になり、警察本部が作製したさまざまな啓発教材などを活用し、非行防止教室や防犯教室を開催しています。幼児や小中学生と一緒に社会のルールを楽しく学び、その大切さを気づかせる取組です。

青少年の深夜外出は禁止です

青少年課

深夜(23時～4時)の外出は、青少年の生活習慣の乱れや健康への悪影響が考えられます。深夜外出は、条例により保護者同伴でも原則禁止されています。

酒、たばこの販売時には、必ず年齢確認を

青少年課

酒、たばこの販売には、条例により証明書での年齢確認が義務付けられています。未成年者が容易に入手できない社会環境を整えましょう。

薬物の乱用防止対策を推進します

薬務課・青少年課

薬物乱用防止教室への講師派遣や、街頭キャンペーンなどを開催。さらにツイッターによる情報発信を行っています。また、薬物の使用を勧めるような図書を有害図書類に指定し、青少年への販売などを禁止しています。

薬務課ツイッター・アカウント @Kana_yaku

薬物関係有害図書類

検索

少年補導活動を実施しています

県警少年育成課

警察と少年補導員、学校関係者などが連携し、街頭補導活動などを行い、非行と犯罪被害の未然防止を図っています。

フィルタリングの徹底を推進しています

青少年課

県青少年保護育成条例に基づき、青少年が使用する携帯電話端末等へのフィルタリング設定の徹底、インターネット接続制限・監督機能の活用促進、適正利用の普及啓発などを行っています。

携帯電話教室

学校支援課

企業の社会貢献活動のひとつ、「携帯電話教室～正しい使い方といじめ予防～」を実施。携帯電話端末等の安全な使い方やマナーなどを身につけることに役立っています。

情報モラル教育の推進

子ども教育支援課・高校教育課

家庭や地域社会と連携を図りながら、児童・生徒の実態や発達段階に応じて、学習指導要領に基づいた情報モラルの育成を図っています。

消費生活のトラブルを学ぶページです

消費生活課

県のホームページに、小学生向け・中学生向けのページを開設しています。

■小学生向け

学ぼう!知ろう!身近なキケン

検索

■中高生向け

こんなにある!身近な消費生活トラブル 中高生

検索

青少年向け携帯電話端末等の推奨制度

青少年課

首都圏九つの都・県・政令市が共同で、青少年が安心して使用できる携帯電話端末等の推奨基準を定めています。「インターネットに接続できない」「深夜利用を適切に制限できる」など、携帯電話端末等を選ぶ際の目安・参考となるものです。

地域の見守りと子ども・青少年の居場所づくり

次世代育成課・青少年課・生涯学習課

市町村が主体となって実施する「放課後子ども教室」、「放課後児童クラブ」を支援します。また、青少年が安全・安心に過ごすことができるよう、地域の見守りや居場所づくりを推進しています。

児童・生徒の安全確保と、 犯罪被害にあわせないまちづくりの推進

県警生活安全総務課

- 子どもに行き先を必ず聞く、夕暮れ時に遊んでいたら帰るよう促すなど、家庭でのルールづくりや地域での取組の啓発に努めています。
- 関係機関と連携し、パトロールや子どもの見守り活動を推進しています。
- 子どもの緊急避難場所「子ども110番の家」活動への支援を行っています。
- メールで情報発信を行っています。

ビーガールくん子ども安全メール

検索

- 防犯教室「おおだこポリス子ども安全スクール」を開催しています。

目標と実績

■青少年の深夜外出を規制する条例の周知度

	目標	実績
2014年度	—	37.7%
2015年度	40%	46.8%
2016年度	42%	45.7%
2017年度	44%	45.7%
2018年度	46%	—

※出典:

平成29年度「青少年を取り巻く問題と保護者の意識に関するWEB調査」(青少年課)

■ICTを活用して、生徒に指導する能力があると回答した教員の割合

	目標	実績
2013年度	—	59.4%
2014年度	—	58.6%
2015年度	65%	60.4%
2016年度	70%	72.7%
2017年度	75%	—
2018年度	80%	—

※出典:

平成28年度「学校における教育の情報化の実態等に関する調査」(文部科学省)

■地域で活動する防犯ボランティアの育成数(累計)

	目標	実績
2014年度	—	1,064人
2015年度	1,250人	1,281人
2016年度	1,500人	1,608人
2017年度	1,750人	2,017人
2018年度	2,000人	—

※出典:平成29年度 ぐらし安全交通課調査



一人で悩まず、迷わず、まずは電話を！



<p>かながわ子ども・若者総合相談センター (ひきこもり地域支援センター)</p>	<p>■ひきこもり・不登校・非行、“どこに相談したらいいかわからない” など、様々な悩みの相談に応じます。 ☎ 045-242-8201 (面接相談は要予約) 9:00～12:00、13:00～16:00 (月曜日・年末年始を除く)</p>
<p>神奈川県西部青少年サポート相談室</p>	<p>■ひきこもり・不登校・非行などの相談 ☎ 0465-35-9527 (面接相談は要予約) 10:30～12:00、13:00～16:00 (土・日・祝日・年末年始及び年10日ほどの休室日を除く)</p>
<p>青少年相談窓口</p>	<p>■ひきこもり・学校のこと、仕事のこと、人間関係など 湘南地域 ☎ 070-4552-9838 (面接相談は要予約) 火曜日(毎月4回) 13:00～17:00 県央地域 ☎ 070-4436-5970 (面接相談は要予約) 金曜日(毎月4回) 13:00～17:00</p>
<p>児童相談所全国共通ダイヤル</p>	<p>■児童虐待に関わる相談・通報、子育ての悩みの相談に応じます。 ☎ 189 ※お住まいの地域の児童相談所におつなぎします。 毎日・24時間受付</p>
<p>こころの電話相談</p>	<p>■こころの健康に関わる相談 ☎ 0120-821-606 9:00～21:00 (受付 20:45 まで/土・日・祝日・年末年始を除く) ※政令市の各精神保健福祉センターでも電話相談を行っています。</p>
<p>24 時間子ども SOS ダイヤル</p>	<p>■いじめを含めた困りごと全般についての相談 ☎ 0120-0-78310 又は 0466-81-8111 毎日・24時間受付</p>
<p>ユーステレホンコーナー (県警少年相談・保護センター)</p>	<p>■非行・犯罪被害・いじめなどの相談 ☎ 0120-45-7867 (045-641-0045) 8:30～17:15 (土・日・祝日・年末年始を除く)</p>
<p>神奈川県発達障害支援センター かながわA(エース)</p>	<p>■発達障害のある方の相談 ☎ 0465-81-3717 8:30～17:15 (土・日・祝日・年末年始を除く)</p>
<p>かながわ若者就職支援センター</p>	<p>■39歳以下の方の就業支援 来所相談●横浜市西区北幸1-11-15 横浜STビル5階 ☎ 045-410-3357 (予約受付) 9:30～18:00 (日・祝日・年末年始を除く)</p>
<p>神奈川県西部地域若者サポートステーション</p>	<p>■働くことに悩みを抱える15～39歳の方々の職業的自立支援 来所相談●神奈川県小田原市城山1-6-32 Sビル2階 ☎ 0465-32-4115 10:00～17:00 (日・祝日・年末年始を除く 土曜は月1回開所)</p>
<p>神奈川県央地域若者サポートステーション</p>	<p>■働くことに悩みを抱える15～39歳の方々の職業的自立支援 来所相談●神奈川県厚木市中町2-12-15 アミューあつぎ7階「あつぎ市民交流プラザ」内 ☎ 046-297-3067 10:00～17:00 (日・祝日・年末年始を除く)</p>

お問合せ

神奈川県福祉子どもみらい局子どもみらい部青少年課企画グループ
TEL: 045-210-3840 FAX: 045-210-8841

インターネット■お問合せフォームをご利用ください。

手紙■〒231-8588 神奈川県福祉子どもみらい局子どもみらい部青少年課(所在地は省略できます)

※県の施設、市町村の窓口などにある専用封筒「わたしの提案(神奈川県への提言)」もご利用いただけます。
ご利用の際には、宛先欄に「福祉子どもみらい局子どもみらい部青少年課」と明記してください。

かながわ青少年課

検索